

第3回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 記録
検討委員の発言の概要

(2) 報告

第2回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会の記録について
質疑応答や意見は特になし

(3) 協議

「どのような教育内容や活動が望ましいか」について
委員の発言の内容

今日の新聞に、フィンランドの教育事情が載っており、「競わない、比べない」が教育の世界一の基盤にあるということであった。日本では学力格差の問題があるが、フィンランドの生徒は格差が少ないということも印象的だった。

今後の教育の基礎に、この考え方も必要になってくるのではないかと感じた。学校の在り方も、競争だけとは違った学力の向上を目指したものを考えていくことが大切ではないかと思う。

フィンランドでも学力試験はあるが、それで学校間を競わせるのではなく、悪かった学校にもっと予算をつけるということで、日本と違い印象的だった。

義務教育では、地域の産業の特色を活かしながら育てるのは大切だが、高校の段階では将来を見据えたことを考えるべきで、地域の産業にとらわれすぎるのはどうかと思う。

フィンランドの話は分かる部分もあるが、日本の教育に問題がでてきているのは競い合うことが少なすぎるからということもあるのではないか。例えば、小学校の運動会では順位も付けないなど、結果にまで平等を求めるのはおかしい話で、結果がでるから頑張ろうという心が目覚めるはずである。一本筋を通して教育していく必要があるのではないか。

高校の選択では、上級学校に進学したいとか、部活動で選ぶ場合とか、手に職をつけて将来のためということで選ぶ場合など、いろいろな選択があると思うので、高校の選択で「地域に根ざした」にこだわりすぎるのはどうか。

中学生はキャリア教育などに取組んでいるが、中学校の発達段階で将来どういう姿がいいのかということを選択することは難しい。親の意見が大きく左右することになり、そういう中で、中学生のニーズは、普通科志向が強い。地区内4つの高校の進路状況を見ても、上級学校への進学が多くなっている。

北村山地区といえ、果樹などの農業が盛んで、工業団地もあるので、そういう観点も必要だが、それらは県内のどの地域でもある。普通科や農業科や工業科はどこでも必要だと思うが、その中で、現状では普通科への希望が多い。

北村山地区の4校を視察したが、すばらしい生徒がいて、すばらしい設備

があって、地域に密着したすばらしい取組があると感じた。その4校が、生き抜いて残るためにはどうしたらいいのか、他地区と同じなのか、産業の視点で見ると果樹王国などの特殊性があるが、それを考えたほうがいいのか、それとも考えなくてもいいのかということになると思う。

地域に根ざした人材の育成は一番大切なことだと思う。地域を活性化する人材、地域を潤す人材が育つ基盤として、その地域に魅力ある産業があることが重要である。

この北村山地区は、特に農業と工業を融合させた産業、それがどう発展してどう進んでいくのかの見通しに立った上で、それに合致した人材の育成を考えなければならないと考える。

今、高校だけでは企業が求める人材育成という点では難しい面があるので、高校卒業後それ以上で学びたい生徒たちが、大学に進学しても戻ることができるような産業の基盤を踏まえた上で学校の在り方を考えるべきだと思う。

今社会人になる人は会社に一生涯定年までという意識は少なくなって、転職することが多くなっている。高校からは研修の要望もあるが、さまざまな職業を経験することや、大学でも、アルバイトなどで職場を体験することはいいことである。

小さい時から進路に確信を持って進んでいる人は一握りであって、その他の人はいろいろなことを経験したり体験して見つけていると思う。村山農業高校の生徒がバラ公園での活動に取り組んでいたが、地域に根ざした社会貢献のようなものを、教育の一貫として実施するのはいいことだと思う。

4校を視察して学校は中に入らないと本当に分からないと感じた。身近にある学校をこんなに知らないということは自分自身としても問題だと思うし、地域としてももっと考えなければならないと思う。

地域では、高校生に手伝ってもらえる機会がさまざまあるが、高校生のパワーに本当に力強いものを感じる。地域としても、どのように関わってほしいかということをもっと学校にアピールしていかなければならないと思う。

また、各校の学科によって設備が違うが、これで勉強したら職業としてということが可能になっていくのかななどを、子どもたちに分かりやすく伝えるなど、各学校ももっと工夫をした情報の提供が必要とも思う。

1学級減になると変な噂が流れて応募者が少なくなるという話があった。オープンスクールのようなものを実施して、すばらしいものを保護者や子どもたちに伝えることも大切だと思う。

北村山高校を視察し、大きくてすばらしい設備だと思った。4校を視察したが、どの高校もすばらしく、そのまま継続していくべきだというのが正直なところである。

北村山高校の総合学科について資料に「地域のリーダーとして活躍する人材の育成のため、地域に関する学習や、基礎を重点的に学ぶ」、「地域創造系」

というのがある。地域で育てあげ、そして東京の大学に進学して戻らないのでは地域にとっての損失である。地域のリーダーとして活躍する人材の育成や、地域に関する学習などを大いに取組んでもらいたいし、地域のための人間育成ということが、このように記載されているのは、新しい発想でいいと思っている。

新しい産業がここで起こることもあり得るので、こういうことを他の高校でも取り入れて人材を育ててほしい。

日本では専門家はつくるが、リーダーはつくと昔から言われており、広い視野で見ることができないということで、大学などでも反省している。

総合学科は地域のリーダーをつくるということがあった。学習内容が浅く薄くという危険性もあるが、一回習った中からまた深めてもらえればと思う。

開かれた学校の観点で、地域の中の学校として、地域の中で高校を育てる視点を持って、社会性を身に付けてほしい。そういうことが、社会に貢献できる人材の育成になるというようなことを以前書いたが、地域を活性化させる、地域に貢献できるという観点は大事だと思う。

尾花沢市の場合は人口が減少しており、子どもが激減している。就職は尾花沢市ではなく、しかも戻らないので、一人暮らしの老人が多くなっている。そんな中で小学生は、緑豊かな自然の中の地域学習などで地域の大好きな子どもに育っており、中学生もそうである。その進学先の高校をみると、北村山高校が多いが、天童市や東根市や新庄市などに就職してそのままそこに家を建てていると聞く。尾花沢市を元気にするような北村山高校の教育内容は非常に大事だと思う。

高校で地域にどんどん関わる中で、地域を見る視点や、地域の良さを知り、高校生の中に地域への意識が培われていくのではないかと、小・中・高校の一貫した中で育てられるのではないかと、可能性があるのではないかと考えた。

若い時には、外や大きなところに憧れる気持ちがある。しかし、外に出ても、だんだん生まれたところが良くなってきて、戻ってくることがあるので、その時に、戻って地域に貢献するような環境ができていけばいいのではないかと考える。

東根市には工業団地があるが、東根工業高校が機械に強い分野に就職していたので、工業団地に自分の子どもを就職させたいという思いから、自分の畑を工業団地に売ったというような経過があった。ところが、時代が変わって、安い労働力を求めて中国へというようになった。工業団地に勤めているが、中国語や英語が分かれば、外からのバイヤーに対応ができるので、どんどん抜擢される。だから、地元の高校には国際語学科のようなものを設置するのがいい、機械だけではないほうがいいと言われている。

全体の予算が少なく、先生の数などが制限されている話をしたところ、国際語学科を設置するのであれば、地域に英語や中国語や韓国語を話せる人が

たくさんいるので、そういう人をもっと活用したらどうかとも言われている。

自分の学科だけではなくて、いろんなことを学校の中で経験できれば良かったと聞いている。例えば女の子で東根工業高校の自動車学科に入っても、生活クリエイト科の授業が受けられるような、柔軟な選択が可能な学校であれば良かったということである。

地域の学校として、子どもたちが望む多様なニーズに応えられる学科や、企業が生徒たちに何を望んでいるのかを的確に捉えて、いち早く対応していくことが大事だと思う。

東根工業高校の生徒がインターンシップを実施しているが、その中で保育や福祉のことが、自分に向いているのかもしれないということや、職業の先というものが見えるようになったという話をしていた。このような機会を地元で支援できるようなシステムづくりをしていかなければならないと思う。

今日初めて北村山高校を視察したが、こんなにすばらしい施設で、生徒もあいさつもしっかりしていて、いきいきしているのになぜ定員割れをしてしまうのかと、本当に疑問に思った。北村山高校に進学しないで天童高校に進学したいと思うのは理由があると思うので、そこをもう一度アンケートできちんと認識しないと、この話し合いが先に進まないのではないかなと思う。

先程もあったが、外にでていろんな空気を吸って、それで初めて自分の地域の良さが分かってきて、だったら地域に戻ろうというほうがよりパワーがあると思うので、地元で離さないようにとこだわるのはどうかと思う。

東根工業高校、村山農業高校と専門性のある学校を見せてもらって、なるほど必要だと思った。楯岡高校も、普通科に進みたいという生徒が実際増えているので、そういう人たちの受け皿として必要と思う。また、北村山高校の普通科を軸とした総合的なところに目を向けようとする発想も大事なことと思う。そこで、一般の親、地域の実業人としての考えと、受験生の本当の考えというものを考慮して、両者を踏まえながら考えていかなければならないと思う。

中学校3年生及び小学校・中学校の保護者への意識調査
と地域関係者からの意見聴取の実施について

委員の発言の内容

15の春で自分の将来を固めるのは難しいと思う。途中で学校が面白くなくなったという話も聞く。北村山地区の高校はいろんなバリエーションを持っているので、受けたい授業が、管内であれば聴講できるようなシステムができればいいと思う。

企業にもいろんなアンケートがくるが、抽象的な質問の仕方をされるとどう書いたらいいのか分からなくなってしまうので、生徒が答えやすいような聞き方、様式を作ってほしい。

北村山地区という限定の中で考えていく場合と、尾花沢市、新庄市や山形市などの村山エリアから最上エリアまで広げる場合がある。どのような範囲の質問になるのか心配である。

北村山地区の高校は4つあってバランスがいい。工業団地を控えた工業科、普通科もあり、果樹などの農業に関わる農業科、そして北村山高校の総合学科があって、できれば残してほしい。

少子化からの議論だとすると、北村山地区に限定して考えていいのか、西村山や東南村山地区を含めた学校の再編は考えられないのかと思う。

高校には講座制があればおもしろいと思う。講座があって、少ない人数でもいいから、1、2年生のうちにはいろんなことが学べるようになっていけばいいと思う。

北村山地区はモデル地区であって、バラエティがあって、こういう在り方を議論するにはいい地域だと思う。しかし、少子化ということがあるので、ここからどうしたらいいのかということについては、難しい問題があると思う。

アンケートについては、事務局と私(委員長)に一任をいただいて、実施するというところでよろしいか。

[他の委員から特になし]

以上